### (16)特別活動

### ①現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた特別活動の目標の在り方

### i)現行学習指導要領の成果と課題

- 特別活動は、学級活動・ホームルーム活動、児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、 学校行事から構成され、それぞれ構成の異なる集団での活動を通して、児童生徒が学校 生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育む活動として機能してきた。
- 特別活動は(望ましい)集団活動を通じて行われるという特質があり、各活動及び学校行事を通じて、協働性や異質なものを認め合う土壌を育むなど、生活集団、学習集団として機能するための基盤が創られている。さらに、特別活動のもつ生徒指導の機能、ガイダンスの機能等が、それらを強固なものにすることに寄与している。
- このことは、全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、「学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思う」と肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向にあることからも見て取れる。
- 特別活動における集団活動は、集団への所属感、連帯感を育み、それが学級文化、学校文化の醸成へとつながり、各学校の特色ある教育活動の展開を可能としており、このような特別活動は、我が国の教育課程の特徴として、海外からも高い評価を受けている。
- 一方で、更なる充実が期待される今後の課題は、概ね以下のような点である。

#### ①育成を目指す資質・能力の視点

特別活動においては、「なすことによって学ぶ」ということが重視され、各学校で特色ある取組が進められている一方で、各活動において身に付けるべき資質・能力は何なのか、どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につながるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきた実態も見られる。特別活動の時間において育成する資質・能力だけでなく、特別活動が各教科等の学びの基盤となるという面もあり、教育課程全体における特別活動の役割、機能も明らかにする必要がある。

#### ②学習指導要領における内容の示し方の視点

これまで、各活動の内容や指導のプロセスについて構造的な整理が必ずしもなされておらず、各活動等の関係性や意義、役割の整理が十分でないまま実践が行われてきたという実態も見られる。特に中学校・高等学校の学級活動・ホームルーム活動の内容項目が多いことが、学級・ホームルームの課題を自分たちで見出して解決に向けて話合う活動が深まらない要因の一つとなっていると考えられる。

③複雑で変化の激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点

社会参画の意識の低さが課題となる中で、自治的能力を育むことがこれまで以上に 求められている。また、キャリア教育を学校教育全体で進めていく中で特別活動が果 たす役割への期待も大きい。このほか、防災を含む安全教育、体験活動など、社会の 変化や要請も視野に入れ、各教科等の学習と関連付けながら、特別活動において育成 を目指す資質・能力を示す必要がある。

### ii)課題を踏まえた特別活動の目標の在り方

- 特別活動において育成を目指す資質・能力について、幼児教育や他教科等との関係性も意識しつつ、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という三つの視点を手掛かりとしながら、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って別添17-1のとおり整理を行った。これら育成を目指す資質・能力を踏まえ、小・中・高等学校の系統性を考慮して特別活動の目標を示す必要がある。(別添17-2を参照)
- これまでの特別活動の目標では、特別活動の特質を「望ましい集団活動を通して」という点においてきた。この「望ましい集団活動を通して」とは、一人一人の児童生徒が互いのよさや可能性を認め、生かし、伸ばし合うことができるような実践的な方法で集団活動を行ったり、望ましい集団を育成しながら個々の児童生徒に育てたい資質や能力を育成したりするという特別活動の方法原理を示したものであるが、「望ましい」ということが、学習過程というよりは目標を示しているような印象や、あらかじめ望ましい集団があることが学習の前提となっているかのような誤解を与える可能性があるため、今後その要素を具体的に目標の中に示すこととする。
- 特別活動は、教育課程全体の中で、①特別活動の各活動において資質・能力を育む役割だけでなく、②学級活動を通じて学級経営の充実が図られ、学びに向かう学習集団を形成することや、各教科等において育まれる「見方・考え方」を特別活動の中で実践的な文脈で用いることによって、各教科におけるより「主体的・対話的で深い学び」の実現に寄与する役割や ③教育課程外も含め学級・学校文化の形成等を通じて学校全体の目標の実現につなげていく役割を担っており、これらをバランスよく果たすことが求められる。

#### iii)特別活動における「見方・考え方」

- 特別活動とは、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。その活動の範囲は学年・学校段階が上がるにつれて広がりを持っていき、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中でその資質・能力は生かされていくことになる。
- また、実生活の課題を解決するために、互いのよさや可能性を発揮できるような様々な集団活動を通して、各教科等における学びを実際の場面で総合的に活用して実践する時間であるとともに、特別活動の学びが各教科等の学習を行う上での土台となるといった各教科等と往還的な関係にあると言うことができる。

○ このような特別活動の特質を踏まえつつ、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」 の三つの視点を手掛かりとして、特別活動の「見方・考え方」は、「各教科等における見 方・考え方を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の 形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること」と整 理した。

## ②具体的な改善事項

#### i)教育課程の示し方の改善

### ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 特別活動の特質に鑑みれば、「決めたことの実践」が重要であることはいうまでもないが、特別活動において育成を目指す資質・能力は、実践も含めた全体の学習過程の中で育まれるものである。例えば、学級活動・ホームルーム活動においては「問題の発見・確認」、「解決方法の話合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」といった学習過程を示している。(別添17-3を参照)
- 集団活動の中で、多くの生徒が役割を経験することが重要である。役割を果たす中で 主体的に思考・判断・表現し、自己有用感を育むとともに、役割を決め、その責任を果 たそうとする過程自体が、自治的能力や、主権者として積極的に社会参画する力を育成 することになる。
- また、特別活動においては、休み時間や給食の時間、放課後等を含めた学校教育全体 を見渡して、教員が意図的、計画的に指導を行うことも大変重要である。

## イ 指導内容の示し方の改善

#### (学級活動・ホームルーム活動の内容)

- 学級活動・ホームルーム活動について、内容項目ごとに育成を目指す資質・能力とそのために重視する学習過程を明確にして、特に自治的能力の育成を重視し、課題の発見を含めて児童生徒主体の話合いを通じて行うことが改めて明確となるようにする。
- 総則において学級(ホームルーム)経営に関して明示することに対応し、学級活動・ホームルーム活動の(1)を中心に学級経営との関連を図ることを示すことが必要である。
- また、小・中・高等学校を通じて育成を目指す資質・能力の観点から、以下のように 系統性が明確になるよう構造を整理する。
  - ・小学校の学級活動の内容に(3)を設け、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確になるよう整理すること

- ・中学校、高等学校において、与えられた課題ではなく学級・ホームルーム生活における課題を自分たちで見出して解決に向けて話し合う活動として(1)の内容を重視する視点から、(2)(3)の内容を整理すること
- これらを踏まえ、小・中・高の学級活動・ホームルーム活動の構成は、以下のような 構成とする。
  - ①学級・ホームルームや学校における集団生活の創造、参画(仮) 主として自発的・自治的な集団活動の形成や運営に関わる内容であり、集団として の議題の選定や話合い、合意形成とそれに基づく実践を大事にする活動。日々の学級 経営との関連を図る。
  - ②一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現(仮) 主として個人が現在直面する生活における適応や成長、自律等に関わる内容であり、 一人一人の理解や自覚、意思決定とそれに基づく実践等を大事にする活動。最終的に は一人一人が意思決定を行い実践するが、話合いを生かして考えを深めることを重視 する。関係する教科、個別の生徒指導等との関連を図る。
  - ③一人一人のキャリア形成と実現(仮) 主として将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動。教育課程全体を通して行うキャリア教育との関連を図るとともに、個に応じた学習の指導・援助や、個別の進路相談等との関連を図る。
- 前述のように、構成の大枠は小・中・高等学校の系統が明らかになるよう整理しつつ、 それぞれの具体的な内容や示し方は、総則や各教科等の学習内容との関係も踏まえなが ら、各学校段階にふさわしいものとすることが必要である。

#### (児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事)

- 児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事においても、それぞれの活動を通して、育成を目指す資質・能力を明確化する方向で目標及び内容の示し方を改めることが必要である。各学校において、各活動等を通じて育成を目指す資質・能力と、その実現に必要な活動内容を十分考慮し、必要かつ適切な時間数を確保することが必要である。
- 特にクラブ活動については、一時間一時間の活動を楽しむと言うことだけではなく、 全員にとって楽しいものとなるよう話し合って実践したり、役割や責任を果たしたり、 目標を持って参加したりすることで資質・能力の育成につながるよう、年間を通して適 切な時間を確保することが望まれる。
- ○また、特に小学校・中学校については、地域により学校の規模その他の事情が様々であることに留意して、必要に応じて重点化を図ることも示す。

## ii) 教育内容の改善・充実

- 主権者教育の視点として、多様な他者と協働しながら、地域の課題を自分事として捉えて主体的にその解決に関わり、社会に積極的に関わっていく力が今後ますます重要になる。学級会・ホームルーム活動における自治的能力を育成する様々な活動、児童会・生徒会における役員選挙や総会、委員会活動や、クラブ活動の計画的な運営など、自治的な活動を実践的に学ぶ場面などについて、社会科や公民科との関連も図りつつ、その一層の充実を図ることが求められる。
- キャリア教育は、小学校から高等学校まで教育活動全体の中で「基礎的・汎用的能力」を育むものであるが、狭義の「進路指導」との混同により、中学校・高等学校においては、入学試験や就職活動があることから本来の趣旨を矮小化した取組になっていたり、職業に関する理解を目的とした活動だけに目が行きがちになったり、小学校では特別活動において進路に関する内容が存在しないため体系的に行われてこなかったりしている実態がある。キャリア教育本来の役割を改めて明確にするためにも、小学校段階から特別活動の中にキャリア教育の視点を入れていくことが重要である。
- 防災を含む安全教育について、特別活動は、学級活動における「安全な生活態度の形成」や学校行事における避難訓練などの活動を行うことだけでなく、各教科における学びと日常の生活をつなぐ重要な役割を果たす。また、特別活動で育む自立した生活を営むことや、ともに助け合う力、社会参画の力は、安全に生きていくために求められる「自助」「共助」「公助」につながっていく。安全に関して育成を目指す資質・能力の議論を踏まえつつ、こうした取組の充実を図ることが求められる。
- 前回改訂で充実が図られた、食育の観点を踏まえた学校給食と食習慣の形成は引き続き重要であり、各学校の実態に応じて効果的な指導が行われることが望ましい。
- 自然の中で生活をともにする集団宿泊活動については引き続き重要である。育成した い資質・能力を明確にし、青少年教育施設の指導員等とねらいや活動について共有する ことが重要である。より効果的な活動とするために各教科の年間計画と関連を図って学 びを深いものとしたり、「イングリッシュ・キャンプ」「通学合宿」などを行ったりする などの工夫を行い、より長期間の活動とすることも考えられる。
- 学級・学校の中にいる児童生徒一人一人の個性を尊重し、障害の有無や国籍など様々な違いに関わらず協働していく力を育むこと、地域の高齢者や障害者、外国出身者など様々な人との交流を通じて学ぶことも重要である。
- 情報活用能力の育成という視点からは、学級活動等における問題の発見や確認などを 行う際に情報を収集・整理することや、学校図書館の利用なども重要である。また、ク ラブ活動の中にプログラミングを体験する学習を取り入れることも考えられる。

#### iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

## ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

○ 特別活動は、児童生徒同士の話合い活動や、児童生徒の自主的・実践的な活動をその 特質としている。「主体的・対話的で深い学び」を実現する視点から授業改善を行うこと は、特別活動の本質に関わるものであり、これまでも重要と考えられてきたことにつな がるものである。

#### ①「主体的な学び」の視点

特別活動においては、学級や学校の実際の集団生活の中から課題を見いだすことに 特質がある。集団生活をよりよくしていくためには何に取り組んだらよいのかという ことを主体的に見いだしたり、活動を振り返り、よい点や改善点を見付け出すことに よって、新たな課題の発見、設定をすることが可能となりそれが次なる動機となった りする。こうした課題の設定や振り返りといった学習過程を意識して、そこで育成を 目指す資質・能力を明確にすることが求められる。

#### ②「対話的な学び」の視点

特別活動は多様な他者との集団活動を基本とし、これまでも「話合い」を全ての活動の中で重視してきた。集団活動を行う上で合意形成を図ったり、意思決定をしたりする中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることが可能となる。また、異年齢の子供や障害のある児童生徒等多様な他者と対話しながら協働すること、地域の人との交流の中で考えを広めたり自己肯定感を高めたりすること、自然体験活動を通じて自然と向き合い日頃得られない気付きを得ること、キャリア形成に関する自分自身の意思決定の過程において他の児童生徒や教員等との対話を通じて考えを深めることなども重要である。

#### ③「深い学び」の視点

特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、一連のプロセスの中で、「見方・考え方」を働かせ育成を目指す資質・能力は何なのかということを明確にした上で、意図的・計画的に指導に当たることが求められる。

#### イ 教材や教育環境の充実

○ 教育課程全体で行うキャリア教育の中で、特別活動が中核的に果たす役割を明確にするため、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材(「キャリア・パスポート(仮称)」)を作成することが求められる。特別活動を中心としつつ各教科等と往還しながら、主体的な学びに向かう力を育て、自己のキャリア形成に生かすために活用できるものとなることが期待される。将来的には個人情報保護に留意しつつ電子化して活用することも含め検討することが必要である。

- 特別活動に関する指導力は、免許状がないこと等から専門性という点で軽く見られが ちであるが、本来、小・中・高等学校の全ての教員に求められる最も基本的な専門性の 一つである。教員養成段階で、特別活動の意義や学校の教育活動全体における役割、指 導方法等の本質をしっかりと学ぶようにすることが必要である。また、国や都道府県等 による取組状況の共有などを行う研修や、研究団体等による指導方法等の研究及びその 普及が強く求められる。
- 地域との連携・協働に当たり、活動を通して育てたい資質・能力を地域と共有することが必要である。子供たちが地域の行事への参加、地域の課題解決に向けて取り組むなど大きな役割を果たすことにより、資質・能力を生きて働くものとして成長させたり、学習意欲、自己肯定感を醸成させたりするとともに、地域教育力の向上、地域の活性化、学校との信頼関係構築にもつながる。コミュニティ・スクールの枠組みの積極的な活用や、地域学校協働本部との協働、教育委員会と首長部局との連携も重要である。
- また、自主的な学習を深める場としての学校図書館の整備充実、小・中・高等学校の学校間の連携、家庭との連携や様々な家庭状況への配慮、小規模校における教育効果を高める工夫などの取組も重要である。

	知識•技能	思考力·判断力·表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校	<ul><li>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。</li><li>様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。</li></ul>	○ 所属する様々な集団や自己の生活 上の課題を見いだし、その解決のた めに話し合い、合意形成を図ったり、 意思決定したり、人間関係をよりよ く構築したりすることができる。	○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。
<b>315</b> 中学校	<ul><li>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。</li><li>様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。</li></ul>	○ 所属する様々な集団や自己の生活 上の課題を見いだし、その解決のた めに話し合い、合意形成を図ったり、 意思決定したり、人間関係をよりよ く構築したりすることができる。	○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。
小学校	<ul><li>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。</li><li>様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。</li></ul>	○ 所属する様々な集団や自己の生活 上の課題を見いだし、その解決のた めに話し合い、合意形成を図ったり、 意思決定したり、人間関係をよりよ く構築したりすることができる。	○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活をよりよく形成しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。

学

校

ഗ

教

育

Ħ

生活範

囲や

## 《特別活動における「見方・考え方」(集団や社会の形成者としての見方・考え方》

各教科等における「見方・考え方」を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、

よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること

#### 特別活動における自主的・実践的な活動や生徒指導の機能、ガイダンスの機能が学級生活の基盤、学校生活の基盤をつくる

0 0 考え方が り実践が り実践が も実践が が的動に営の 長文おお充 し脈いけ実 てるを

教体る 科的特 科等における見方やお的な学び」、「協働的な特別活動の役割や、学 がえた。 き方び向 るようになるなど、 効果的に活用する かより充実する。 がう学習集団の形t など、教科等の見ち用することによって、

成

0

寄与により

【高等学校】

◎集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせて、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら 葛藤や問題解決を繰り返すことを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

特別活動における教育のイメージ

- ○多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し技能を身に付ける。
- ○所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係を よりよく構築したりすることができるようにする。
- ○自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成 しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。

#### 【中学校】

- ◎集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせて、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら **直面する課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。** 
  - ○多様な他者と協働するの様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し技能を身に付ける。
  - ○所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係を よりよく構築したりすることができるようにする。
  - ○自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や**社会**をよりよく形成 しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。

#### 【小学校】

- ◎集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせて、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら 集団や自己の生活上の課題を改善することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。
  - ○多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し技能を身に付ける。
  - ○所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係を よりよく構築したりすることができるようにする。
- ○自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活をよりよく形成しよう としたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。

#### 【幼児教育】

#### 【健康な心と体】

ずの見方やよって、よ

幼稚園生活の中で満足 感や充実感を持って自分 のやりたいことに向かっ て心と体を十分に働かせ ながら取り組み、見通しを 持って自ら健康で安全な 生活を作り出していける ようになる。

## 【自立心】

自分の力で行うために 思いを巡らし、自分でし なければならないことを 自覚して行い、諦めずに やり遂げることで満足感 や達成感を味わいなが ら、自信を持って行動す るようになる。

#### 【協同性】

友達との関わりを通じ て、互いの思いや考え などを共有し、実現に 向けて、工夫したり、協 力したりする充実感を 味わいながらやり遂げ るようになる。

#### 「首徳性・規範意識の芽生え」

よいことや悪いことが分かり、 相手の立場に立って行動する ようになり、自分の気持ちを調 整し、友達と折り合いを付けな がら、決まりの大切さが分かり 守るようになる。

#### 【社会生活との関わり】

・家族を大切にしようとする気持ちを持 ちつつ、いろいろな人と関わりながら、 自分が役に立つ喜びを感じ、地域に 一層の親しみを持つようになる。 ・情報を伝え合ったり、情報に基づき 思い合わせたりるようになるとともに、 公共の施設を大切にしたり、社会全体 とのつながりの意識等が芽生えるよう

#### 【思考力の芽生え】

・身近な事象に好奇心や探究心を持つ て思いを巡らしながら積極的に関わり、 物の性質や仕組み等に気付いたり、予 想したり、工夫したりなどして多様な関 わりを楽しむようになるとともに、友達 と考えを思い合わせるなどして、新しい 考えを生み出す喜びを感じながら、よ りよいものにするようになる。

#### 【自然との関わり・生命尊重】

- ・自然に触れて感動する体験を 通して、自然の変化などを感じ取 り、身近な事象への関心が高ま りつつ、自然への愛情や畏敬の 念を持つようになる。
- 身近な動植物を命あるものとし て、いたわり大切にする気持ちを 持つようになる。

# 学級(ホームルーム)活動

# 子級(小一ムルーム)活動

## ①問題の発見・確認

活 容 動

- (i)学級や学校における生活の諸問題に気付き、その中から議題を学級全員で決定する。話合いの計画を立て、解決に向けて自分の考えをもつ。
- (ii)日常生活や自己の課題、目標、学業や進路に関する内容について、教師が設定した課題を確認し、解決の見通しをもつ。

資質·能·

- 〇:情報の収集・整理などを通し、学級や学校生活、地域・社会の課題を発見する力
- 口: 自己の課題に気づく力、自己の適性を把握する力
- 口:目標を設定する力

## ②解決方法の話合い

- (i)よりよい生活をつくるための問題の原因や具体的な解決方法、役割分担などについて話し合う。
- (ii)設定された課題の状況や自分の問題の状況を 把握し、原因や具体的な解決方法などについて話し 合う。
- ○:集団活動における自己の役割やその意義 についての理解
- 〇:協働して問題を解決しようとする態度
- □:生活を改善したり、将来を見通して自己の 生き方を選択したりできる力

◇:よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

# ⑤振り返り

実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、 結果を分析し次の課題解決に生かす。実践の 継続や新たな課題の発見につなげる。

- ○: 希望や目標をもって現在の生活を改善しよう とする態度
- 〇:よりよい生活をつくろうとする態度
- □:学級や学校の中で自分のよさや可能性を 生かそうとする態度
- □:自己を生かせる生き方や職業を主体的に 選択しようとする態度

## 4決めたことの実践

決定した解決方法や活動内容を責任をもって実践する。

③解決方法の決定

話合い活動で具体化された解決方法等の中から合意形成を図ったり、意思決定したりする。

- 〇: 合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力
- 〇:課題解決に向かおうとする情意や態度
- 〇:よりよい生活をつくろうとする態度
- □:日常の生活を改善する力、自己の在り方を改善することができる力、意志決定する力
- ※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点・・・◇:人間関係形成、○:社会参画、□:自己実現
- ※ここで示した過程は例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。
- ※実践の場は、休み時間や給食の時間、放課後など、必ずしも特別活動の時間とは限らない。

次の課題解決

1

# 特別活動における児童会活動・生徒会活動の学習過程のイメージ

## 児童会活動・生徒会活動

## ①問題の発見・確認、議題の設定

**沽動内** 

児童会、生徒会、各種委員会等における役割の決定及び選定(互選や選挙)

代表委員会、生徒評議会:学校における問題の発見・確認

各種委員会:所属する委員会の所掌の範囲内における学校の問題の発見・確認

生徒総会(中学校、高等学校のみ):学校の取組に関する計画の設定及び報告等、議題の提示

資質·能力

次

の課題解

決

〇:情報の収集・整理などを通し、学校、地域・社会の課題を発見する力

〇: 学校や地域・社会の形成者として、よりよい生活をつくろうとする態度

口:目標を設定する力

## ②解決に向けての話合い

発見した問題の解決の方向性や解決方法、役割分担などについて話し合う

生徒総会:議題に関する解決方法についての説明

- ○:集団活動における自己の役割やその意義について の理解
- 〇:よりよい生活をつくろうとする態度
- 〇:協働して問題を解決しようとする態度

◇:よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

# ⑤振り返り

実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、実践の継続や新たな課題の発見につなげる。結果を分析し次の課題解決に生かす。

- 〇:よりよい生活をつくろうとする態度
- ○:問題を解決し、よりよい生活を作ろうとする 態度
- □:学校の中で自分のよさや可能性を生かそう とする態度

## 4決めたことの実践

解決方法や活動内容について、各学級や各委員会への周知等、解決方法の実践 生徒総会:議決された事項について実践

〇:合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力

〇:課題解決に向かおうとする情意や態度

〇:よりよい生活をつくろうとする態度

〇:集団活動における自己の役割やその意義についての理解

※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点・・・◇:人間関係形成、○:社会参画、□:自己実現

※ここで示した過程は例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

③解決方法の決定

解決方法や活動内容についての合意形成 生徒総会:解決方法への賛否の表明、議決

# 特別活動におけるクラブ活動の学習過程のイメージ

## クラブ活動

## ①クラブ活動の設置

活動内容

自分の興味・関心に基づき、新たにつくり たいクラブを提案する。

※提案等に基づきクラブを設置する。

資質•能

〇:発意、発想を生かそうとする態度

□:学校生活の中で自分のよさや可能性 を生かそうとする態度

# ②クラブへの所属

自分の希望により、所属するクラブを決定する。

- 〇:発意、発想を生かそうとする態度
- □:学校生活の中で自分のよさや可能性を生か そうとする態度

# ③計画や運営についての話合い

クラブの目当てや自分の目当てを話し合う。

発意・発想を生かして、クラブの内容や活動計画について話し合う。

役割分担を行う。

- ○: 多様な他者の意見を尊重し、進んで合意形成を 図ろうとする態度
- 口見通しをもって活動できる力

◇:よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

## ⑤振り返り

活動を振り返り、次の活動に生かす。

- 〇:よりよい生活をつくろうとする態度
- □:学校の中で自分のよさや可能性を生かそう とする態度

# **■④**クラブの活動や成果の発表・

クラブの活動を通して共通の興味・関心を追求する。 年間の活動内容や成果の発表をする。

- ※異学年の児童と協力して活動する。
- ※計画的・継続的に実施する。

# ■③<mark>計画や運営方針の決定</mark>◀

合意形成を図り、クラブの内容や計画、役割を 決める。クラブの目当てや自分の目当てを決 める。

- 〇:合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力
- 〇:よりよい生活を協働してつくろうとする態度
- 〇:自己の役割や責任を進んで果たすことができるカ
- ※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点・・・◇:人間関係形成、○:社会参画、□:自己実現
- ※ここで示した過程は例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

興味・関心の追求 次年度の活動に生か

# 特別活動における学校行事の学習過程のイメージ

## 学校行事

## ①行事の意義の理解

活動内容

各行事(儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事、遠足・集団的行事、勤労生産・奉仕的行事)の意義の理解。

現状の把握、課題の確認、目標の設定を行う。

資質·能-

口:学校生活の中で自分のよさや可能性を生かそうとする態度

〇:所属感、連帯感

# ②計画や目標についての話合い

学校が設定する計画等に基づき、各行事について活動目標、計画、内容、役割分担などについて話し合う。

- ○: 多様な他者の意見を尊重し、進んで合意形成を図ろうとする態度
- 〇:所属感、連帯感

◇:よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

## ⑤振り返り

活動を振り返り、まとめたり発表し合ったりする。 実践の継続や新たな課題の発見につなげる。 結果を分析し次の行事や次年度の行事に生かす

- 〇:よりよい生活をつくろうとする態度
- 〇:所属感、連帯感、達成感
- □:学校の中で自分のよさや可能性を生かそう とする態度

## ④体験的な活動の実践

他者と力を合わせて実践する。

※行事により、児童会、生徒会活動と連携を図るなど、自主的に運営する。

■③活動目標や活動内容の決定

活動目標や計画、内容について合意形成を図る。

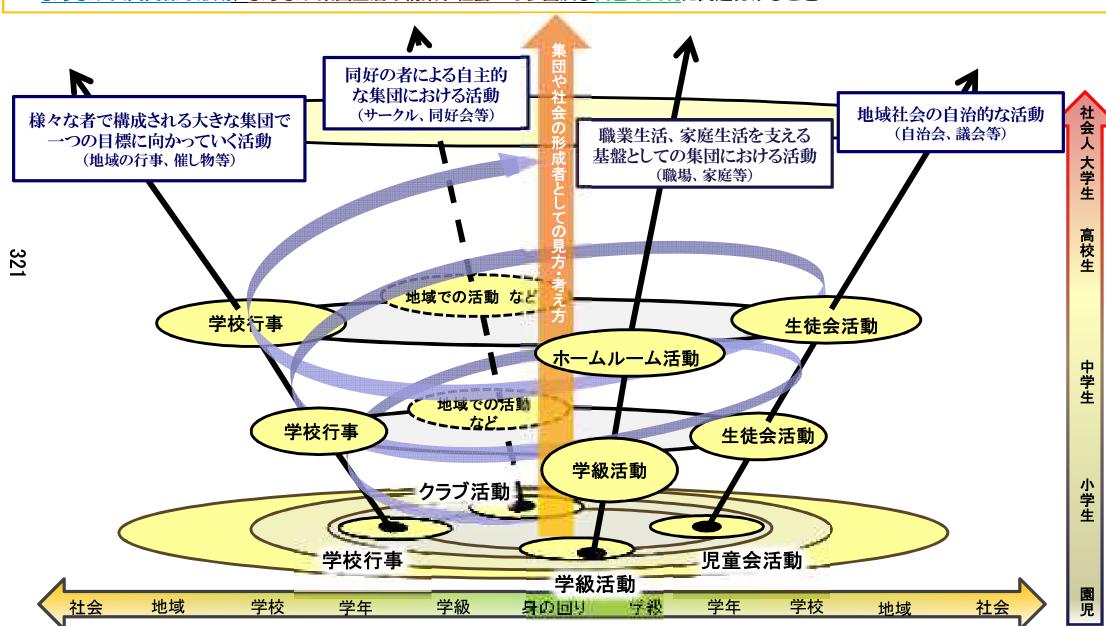
- 〇:合意形成を図る力
- 〇:自己の役割や責任を進んで果たすことができる力
- 〇:仲間とやり遂げることによる所属感、連帯感、達成感
- 〇:自己有用感、困難な課題に挑む意欲、向上心
- 〇: 忍耐力、精神力
- ※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点・・・◇:人間関係形成、○:社会参画、□:自己実現
- ※ここで示した過程は例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

# 特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」(イメージ)

《集団や社会の形成者としての「見方・考え方」》

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、

よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること



# 育成を目指す資質・能力の視点

人間関係形成

社会参画



自己実現



## 社会参画

- ・よりよい学級(ホームルーム)・学校生活づくりなど、集団 や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする視 点。地域や社会に対する参画、社会貢献や持続可能な社 、会の担い手になっていくことにつながる。
- ☆ 社会参画に必要な資質・能力は、個人が集団へ主体的に 図与する中で育まれるものと考えられる。

# 自己実現

- ・現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする視点。
- ・自己実現に必要な、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力は、集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる問題を考察する中で育まれるものと考えられる。

集団・社会

ÉZ



# 人間関係形成

- ・集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成する視点。
- ・必要な資質・能力は、集団の中において、特別活動の学習過程全体を通して、個人対個人という関係性の中で育まれるものと考えられる。
- ・属性、考え方や関心、意見の違いを理解した上で認め合い、互いのよさを 生かすような関係をつくることが重要。

※発達の段階に応じて、集団や社会の範囲が拡大し、他者との関わりが多様になり、扱う問題が高度化する。また、様々な場面において、強い意志 や忍耐力、想定外のことに対応する力などが求められることとなる。

## (学級活動の改善の方向性)

特別活動で育成を目指す資質・能力の3つの視点(人間関係形成、社会参画、自己実現)や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

#### 3つの視点



## 現行の小学校学習指導要領(特別活動)

## 第2 各活動・学校行事の目標及び内容 〔学級活動〕

(1)学級や学校の生活づくり

- ◇○□ ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- ◇○□ イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ◇○□ ウ 学校における多様な集団の生活の向上

# 323

## (2)日常の生活や学習への適応及び健康安全

- ◇○□ ア 希望や目標をもって生きる態度の形成
- ◇○□ イ 基本的な生活習慣の形成
- ◇○□ ウ 望ましい人間関係の形成
- ◇○□ エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解
- ◇○□ オ 学校図書館の利用
- ◇◇□ カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- ◇○□ キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

各項目と3つの視点との関係は、主として指導にあたって特に意識すべきと考えられる視点を 強調して示しているが、それ以外の視点とも相互に関わりあっている。 総則の構成や社会の要請などを 踏まえて整理すべき視点(例)

社会参画・自治の視点

学級経営と関連する視点

多様性を尊重する社会の視点

生活指導、生徒指導と関連する視点

学校段階間の接続の視点

多様性を尊重する社会の視点

キャリア形成の視点

主体的な学びの視点

心身の健康、安全・防災の視点

食育の視点

## 改善のイメージ案

- (1)学級や学校における集団生活の創造、実現(仮)
- ⇒主として自発的・自治的な集団活動の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話合い、 合意形成(集団決定)とそれに基づく実践を大事にする活動。
  - 例)学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりや役割分担、学校における多様な集団生活の向上など集団生活の形成や運営、向上に関する内容 ※日々の学級経営との関連を図る
- (2)一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現(仮)
- ⇒主として個人が現在直面する生活における適応や成長、 自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、 意思決定(自己決定)とそれに基づく実践等を大事に する活動。

例)希望や目標の設定、基本的な生活習慣や健康で安全な生活態度の形成、食育の視点を踏まえた学校給食や望ましい食習慣の形成、当番活動や働くことの意義の理解、学校図書館の利用など、一人一人の児童の学校生活や学習への適応及び健康安全に関する内容 ※関係する教科、個別の生徒指導等との関連を図る

#### (3)一人一人のキャリア形成と実現(仮)

⇒主として将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、 一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動。教育課程全体を通して行うキャリア教育との関連を図る とともに、個に応じた学習の指導・援助や、個別の進 路相談等との関連を図る。

# 中学校特別活動の内容の構成(学級活動)のイメージ

## (学級活動の改善の方向性)

特別活動で育成を目指す資質・能力の3つの視点(人間関係形成、社会参画、自己実現)や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

#### 3つの視点



## 現行の中学校学習指導要領(特別活動)

## 第2 各活動・学校行事の目標及び内容 〔学級活動〕

#### (1)学級や学校の生活づくり

- ◇○□ ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- ◇○□ イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
  - ウ 学校における多様な集団の生活の向上

# 324

 $\Diamond$ O $\square$ 

#### (2)適応と成長及び健康安全

- ◇○□ ア 思春期の不安や悩みとその解決
- ◆○□ イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ◇○□ ウ 社会の一員としての自覚と責任
- ◇○□ エ 男女相互の理解と協力
- ◇○□ オ 望ましい人間関係の確立
- ◇ □ カ ボランティア活動の意義の理解と参加
- ◇○□ キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- ◇○□ ク 性的な発達への対応
  - ○□ ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

#### (3)学業と進路

- ◇○□ ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- ◇○□ イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用
- ◇○□ ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用
- ◇○□ エ 望ましい勤労観・職業観の形成
  - ▶○□ オ 主体的な進路の選択と将来設計

総則の構成や社会の要請などを 踏まえて整理すべき視点(例)

社会参画・自治の視点

学級経営と関連する視点

生活指導、生徒指導と関連する視点

学校段階間の接続の視点

多様性を尊重する社会の視点

社会参画の視点

心身の健康、安全・防災等の視点

食育の視点

主体的な学びの視点

<u>キャリア形成の視点</u>

個に応じた学習の支援や進路 指導と関連する視点

## 改善のイメージ案

- (1)学級や学校における集団生活の創造、参画(仮)
- ⇒主として自発的・自治的な集団活動の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話合い、 合意形成(集団決定)とそれに基づく実践を大事にする活動。

例)学校における多様な集団生活の向上、学級や学校における生活 上の諸問題の解決、学級内の組織づくりと役割分担など、**校内におけるよりよい集団生活の形成や運営、向上に関する内容** 

※日々の学級経営との関連を図る

- (2)一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現(仮)
- ⇒主として個人が現在直面する生活における適応や成長、 自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、 意思決定(自己決定)とそれに基づく実践等を大事に する活動。

例)男女相互の理解と協力などの多様性を尊重した望ましい人間関係の形成や、思春期の不安や悩みの解決や性的な発達への対応、食育の視点や学校給食、食習慣の形成など、生徒個人の適応や成長及び健康安全に関する内容

※関係教科、個別の生活指導や生徒指導との関連を図る

- (3)一人一人のキャリア形成と実現(仮)
- ⇒主として将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、 一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動。教育課程全体を通して行うキャリア教育との関連を図るとともに、個に応じた学習の指導・援助や、個別の進路相談等との関連を図る。

例)学校図書館の利用など、学びと社会生活・職業生活の接続と振り返り(ポートフォリオ)、ボランティア活動の充実や勤労観・職業感の育成を含むなど、自己のキャリア形成と実現に関する内容

\*高等学校においては、社会的移行への対応を含む

3つの視点との関係は、主として関わる視点を強調して示しているが、それ以外の視点とも相互に関わりあっている。

# 高等学校特別活動の内容の構成(ホームルーム活動)のイメージ

## (ホームルーム活動の改善の方向性)

特別活動で育成を目指す資質・能力の3つの視点(人間関係形成、社会参画、自己実現)や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理 すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

#### 3つの視点



#### 現行の高等学校学習指導要領(特別活動)

# 第2 各活動・学校行事の目標及び内容 「学級活動」

(1)ホームルームや学校の生活づくり

- ◇○□ ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決
- ◇○□ イ ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動
  - ウ 学校における多様な集団の生活の向上

# 325

 $\Diamond$ O $\square$ 

#### (2)適応と成長及び健康安全

- ◇○□ ア 青年期の悩みや課題とその解決
- ◇○□ イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ○□ ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任
- ◇○□ エ 男女相互の理解と協力
- ◇○□ オコミュニケーション能力の育成と人間関係の確立
- ◇○□ カ ボランティア活動の意義の理解と参画
- ◇○□ キ 国際理解と国際交流
- ◇○□ ク 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立
- ◇○□ ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立

### (3)学業と准路

- ◇○□ ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- ◇○□ イ 主体的な学習態度の形成と学校図書館の利用
- ◇○□ ウ 教科・科目の適切な選択
- ○○□ エ 進路適性の理解と進路情報の活用
- ◇○□ オ 望ましい勤労観・職業観の確立
- ○○□ カ 主体的な進路の選択決定と将来設計

各項目と3つの視点との関係は、主として指導にあたって特に意識すべきと考えられる視点を強調して示しているが、それ以外の視点とも相互に関わりあっている。

総則の構成や社会の要請などを 踏まえて整理すべき視点(例)

社会参画・自治の視点

ホームルーム経営と関連する視点

生活指導、生徒指導と関連する視点

学校段階間の接続の視点

多様性を尊重する社会の視点

社会参画の視点

心身の健康、安全・防災等の視点

食育の視点

主体的な学びの視点

キャリア形成の視点

個に応じた学習の支援や進路 指導と関連する視点

## 改善のイメージ案

(1)ホームルームや学校における集団生活の創造、参画(仮)

⇒主として自発的・自治的な集団活動の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話合い、 合意形成(集団決定)とそれに基づく実践を大事にする活動。

例)学校における多様な集団生活の向上、ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決、ホームルーム内の組織づくりと役割分担など、校内におけるよりよい集団生活の形成や運営、向上に関する内容 ※日々のホームルーム経営との関連を図る

(2)一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現(仮)

⇒主として個人が現在直面する生活における適応や成長、 自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、 意思決定(自己決定)とそれに基づく実践等を大事にする活動。

例)男女相互の理解と協力やコミュニケーション能力の育成、国際理解・国際 交流などの多様性を尊重した望ましい人間関係の形成や社会参画、青 年期の不安や悩みとその解決、心身の健康と健全な生活態度、生命の 尊重と安全な生活態度、規律ある習慣の確立など、**生徒個人の適応や成** 長及び健康安全に関する内容

※関係教科、個別の生活指導や生徒指導との関連を図る

(3)一人一人のキャリア形成と実現(仮)

⇒ 主として将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、 一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動。教 育課程全体を通して行うキャリア教育との関連を図ると ともに、個に応じた学習の指導・援助や、個別の進路相 談等との関連を図る。

例) 学校図書館の利用など、学びと社会生活・職業生活の接続と振り返り(ポートフォリオ)、ボランティア活動の充実や勤労観・職業感の育成、社会的移行への対応など、自己のキャリア形成と実現に関する内容

### (17)総合的な学習の時間

### ①現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた総合的な学習の時間の目標の在り方

### i)現行学習指導要領の成果と課題

- 総合的な学習の時間は、学校が地域や学校、児童生徒の実態等に応じて、横断的・総 合的な学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこととしている。
- 現行学習指導要領では、総合的な学習の時間を、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすることと同時に、探究的な学習や協同的な学習とすることが重要であることを明示した。特に、探究的な学習を実現するため、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことを重視した。
- 成果としては、全国学力・学習状況調査の分析等において、総合的な学習の時間で探究のプロセスを意識した学習活動に取り組んでいる児童・生徒ほど各教科の正答率が高い傾向にあること、探究的な学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が増えていることなどが明らかになっている。また、総合的な学習の時間の役割はPISAにおける好成績につながったことのみならず、学習の姿勢の改善に大きく貢献するものとしてOECDをはじめ国際的に高く評価されている。
- その上で、今後さらなる充実が期待されることとして、概ね以下のような課題がある。
  - 一つ目は、総合的な学習の時間で育成する資質・能力についての視点である。総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということや、総合的な学習の時間と各教科等との関連を明らかにするということについては学校により差がある。これまで以上に総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにすることが求められている。
  - ・ 二つ目は、探究のプロセスに関する視点である。探究のプロセスの中でも「整理・ 分析」「まとめ・表現」に対する取組が十分ではないという課題がある。探究のプロセ スを通じた一人一人の資質・能力の向上をより一層意識することが求められる。
  - ・ 三つ目は、高等学校における総合的な学習の時間のさらなる充実という視点である。 地域の活性化につながるような事例が生まれていている一方で、本来の趣旨を実現で きていない学校もあり、小・中学校の取組の成果の上に高等学校にふさわしい実践が 十分展開されているとは言えない状況にある。

### ii)課題を踏まえた総合的な学習の時間の目標の在り方

#### (総合的な学習の時間の目標)

- ○これまでは総合的な学習の時間において各学校において育成を目指す資質・能力・態度として、「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」の三つの視点が例示されていた。これら三つの視点と、資質・能力の三つの柱に即して、総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力について整理した。(別添18-1を参照)
- これらを踏まえ、総合的な学習の時間においては、「探究的な(探究の)見方・考え方」を働かせて、よりよく課題を解決し、自己の(在り方)生き方を考えることを通して、 資質・能力を育成することを目標として示す必要がある。(括弧内は高等学校)(別添1 8-2を参照)

#### (教育課程全体における総合的な学習の役割とカリキュラム・マネジメント)

- 総合的な学習の時間において、学習指導要領に定められた目標を踏まえて各学校が教 科横断的に目標を定めることは、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの鍵とな る。各学校が定める目標についても、資質・能力の三つの柱の考え方を踏まえたものと なることが求められる。
- 教科横断的に学ぶ総合的な学習の時間において、各教科等の「見方・考え方」を活用することによって、「見方・考え方」は多様な文脈で使えるようになるなどして確かなものになり、各教科等の「深い学び」を実現することにもつながるものと期待できる。
- 学年間・学校段階間といった「縦」のつながりでも期待される役割が大きい。小学校、中学校、高校の中で、どのような学習を行い、資質・能力を養うことを積み上げていくのかという中で、総合的な学習の時間においてどのような目標、内容の学習を行うかということがひとつの軸となる。
- さらに、総合的な学習の時間は、目標や内容を各学校が定めるという点において、各学校の教育目標に直接的につながる。特に、高等学校では総合的な学習の時間がその学校のミッションを体現するものとなるべきである。

## iii)総合的な学習の時間における「見方・考え方」

- 総合的な学習の時間の特質から求められることは、大きく整理すると、以下のような 点がある。
  - ・一つの教科等の枠に収まらない課題に取り組む学習活動をとおして、各教科等で身に 付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活に生かし、それらが児童生徒の中 で総合的に働くようにすること。

- ・多様な他者と協働し、異なる意見や他者の考えを受け入れる中で、実社会や実生活と の関わりで見出される課題を多面的・多角的に俯瞰して捉え、考えること。
- ・学ぶことの意味や意義を考えたり、学ぶことを通じて達成感や自身を持ち、自分のよさや可能性に気付いたり、自分の人生や将来について考え学んだことを現在及び自己の将来につなげたりして考えるという、内省的(Reflective)な考え方をすること。特に高等学校においては自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら「見方・考え方」を組み合わせて統合させ、活用すること。
- これらを踏まえてまとめると、総合的な学習の時間の「見方・考え方」は「各教科等における『見方・考え方』を総合的(・統合的)に活用して、広範(かつ複雑)な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の(在り方)生き方と関連付けて問い続けること」であると言える。(括弧内は高等学校)

### ②具体的な改善事項

#### i)教育課程の示し方の改善

### ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 総合的な学習の時間において、①「課題の設定」→②「情報の収集」→③「整理・分析」→④「まとめ・表現」といった探究のプロセスを通して資質・能力を育成する。こうした中で、各教科等の「見方・考え方」を総合的(統合的)に活用し、広範かつ複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の複雑な文脈の中で物事を考えたり、自分自身の在り方生き方と関連付けて内省的に考えたりすることが総合的な学習の時間における学習過程の特徴である。(別添18-3を参照)
- 各教科等で育成された「見方・考え方」を総合的・統合的に活用することで、各教科等の「見方・考え方」と総合的な学習の時間の「見方・考え方」は相互に関連し合いながら、より確かなものとなり、実社会・実生活の中で生きて働くものとなっていく。
- この過程の順序は入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりもする。児童生徒にとっては試行錯誤を繰り返すことによりこうした過程を行ったり来たりすることも重要であり、時には失敗したり立ち止まって前提を疑って考えることがあってこそ探究的な学びである。

### イ 指導内容の示し方の改善

○ 学習指導要領において総合的な学習の時間の目標を示し、各学校においてそれを踏ま えて目標や内容を設定するという基本的な構成は維持すべきと考えられる。その上で、 総合的な学習の時間を通じて育成を目指す資質・能力や、教育課程全体における総合的 な学習の時間の役割等を明確にするという観点から、総合的な学習の時間に関する学習 指導要領における示し方についても構造を再整理する必要がある。

- 学習活動の例示については、総合的な学習の時間が果たすべき役割を踏まえ、学習活動の設定に関して望まれる考え方を示す。(例えば、実生活・実社会に関する現代社会や地域社会に関する課題などとすること、児童生徒にとって身近に感じられ、かつ、探究的に学ぶ意義等を実感できるような課題を設定すること等)
- 「知識・技能」に関して、総合的な学習の時間の「探究的な(探究の)見方・考え方」 を働かせた学習活動を通して獲得される概念(的な知識)の方向性を例示するなどの示 し方の工夫を行う。
- 「思考力・判断力・表現力等」に関して、探究のプロセスを通じて働く学習方法(思考スキル)に関する資質や能力を例示するなどの示し方の工夫を行う。
- 「学びに向かう力・人間性等」に関して、探究活動と自分自身、探究活動と他者や社会に関する資質・能力を例示することを検討する。特に高等学校においては、探究と自己のキャリア形成を関連付けることを明確化するなどの示し方の工夫を行う。
- 全体計画及び年間指導計画の作成に当たり、育成する資質・能力を明示するとともに、 児童生徒や保護者、地域・社会にも積極的に説明し共有するよう求めることが考えられ る。

## ii) 教育内容の改善・充実

### ア 構成の見直し

- 各学校段階における総合的な学習の時間の実施状況や、義務教育9年間の修了時及び 高等学校修了時までに育成を目指す資質・能力、高大接続改革の動向等を考慮すると、 高等学校においては、小・中学校における総合的な学習の時間の取組の成果を活かしつ つ、より探究的な活動を重視する視点から、位置づけを明確化し直すことが必要と考え られる。
- 小学校、中学校においては、各教科等の特質に応じて育まれた「見方・考え方」を総合的に活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成し、探究的な学習が自己の生き方に関わるものであることに気付くようにする。
- それを基盤とした上で、高等学校における総合的な学習の時間においては、各教科等の特質に応じて育まれる「見方・考え方」を総合的・統合的に活用することに加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら「見方・考え方」を組み合わせて統合させ、活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成するようにする。
- このため、高等学校の総合的な学習の時間については、名称を「総合的な探究の時間(仮称)」などに変更することも含め位置づけを見直す。これまでの実践事例や国際バカロレアディプロマプログラムにおける「知の理論」なども参考に、各学校の取組が一層の充

実を図るようにする。より探究的な学習を展開するための学ぶ教材を作成し、提供する ことも求められる。

○ キャリア形成と関連付けるという点においては、専門教科における課題研究科目や検討中の「理数探究(仮称)」と同様の性格を持つが、総合的な学習の時間では、特定の分野を前提とせずに、実社会や実生活から自ら見出した課題を探究していくことを通して自己のキャリア形成の方向性を見いだすことにつなげていく。

### イ 教育内容の見直し

- 総合的な学習の時間においては、学習課題の例示として、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的な課題や地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題などを示している。教科横断的な課題については、総合的な学習の時間で扱うだけでなく、各教科等の学習と関連付け、全体としてどのような資質・能力を育成していくかという視点も重要である。
- 教科横断的に育成を目指す資質・能力については、総則の見直しを踏まえて総合的な 学習の時間に関しても必要な規定を置くことが適当である。

#### (持続可能な社会という視点)

- 持続可能な開発のための教育(ESD)は、次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念であると言えるが、そこで求められている資質・能力(国立教育政策研究所の整理によれば、「多様性」「相互性」「有限性」「公平性」「連携性」「責任性」といった概念の理解、「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」などの力)は、総合的な学習の時間で探究的に学習する中で、より確かな力としていくことになると考えられる。
- 持続可能な社会の担い手として必要とされる資質・能力を育成するには、どのようなテーマを学習課題とするかではなく、必要とされる資質・能力を育むことを意識した学習を展開することが重要である。各学校がESDの視点からの教科横断的な学習を一層充実していくに当たり、総合的な学習の時間が中心的な役割を果たしていくことが期待される。

#### (情報活用能力の育成、プログラミング的な思考や社会との関わりの視点)

- 総合的な学習の時間においては、情報の集め方や調べ方、整理・分析の仕方、まとめ 方や表現の仕方などの教科横断的に活用できる「学び方」を身に付け、学習の過程にお いて情報手段の操作もできるようにすることが求められる。
- 「プログラミング的思考」など、子供達が将来どのような職業に就くとしても求められる力を育むため、小学校段階でプログラミングを体験する教育が求められている。総

合的な学習の時間では、例えば、探究的な学習の中で、プログラミングを体験しながら、 自分の暮らしとプログラミングとの関係を考え、そのよさに気付く学びを取り入れてい くことが考えられる。

○ その際、プログラミングを体験することが、総合的な学習の時間における学びの本質である探究的な学習として適切に位置づけられるようにすることとともに、児童一人一人に探究的な学びが実現し、一層充実するものとなるように十分配慮することが必要である。

### iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

### ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- ①「主体的な学び」の視点
- 総合的な学習の時間において、探究のプロセスの中で主体的に学んでいく上では、課題設定と振り返りが重要である。課題の設定に当たっては、自分事として課題を設定し、主体的な学びを進めていくようにするため、実社会や実生活の問題を取り上げることや、学習活動の見通しを明らかにし、ゴールとそこに至るまでの道筋を描きやすくなるような学習活動の設定を行うことが必要である。
- 振り返りについては、自らの学びを意味づけたり価値づけたりして自己変容を自覚し、 次の学びへと向かう「学びに向かう力」を培うために、言語によりまとめたり表現した りする学習活動を意識することが必要である。
- 振り返りは授業や単元の終末に行うものとは限らず、学習の途中において、見通した ことを確かめ、必要に応じて見通しを立て直すことも考えられ、こうした振り返りを主 体的に行う資質・能力を育てることも重要である。
- ②「対話的な学び」の視点
- 多様な他者と力を合わせて問題の解決や探究活動に取り組むことには、①他者へ説明することにより生きて働く知識や技能の習得が図られること、②他者から多様な情報が収集できること、③新たな知を創造する場を構築できることといったよさがある。
- 例えば、情報を可視化し操作化する思考ツールの活用などにより、児童生徒同士で学 びあうことを助けるなどの授業改善の工夫によって、思考を広げ深め、新たな知を創造 する児童生徒の姿が生まれるものと考えられる。
- 協働的に学習することはグループとして結果を出すことが目的ではなく、一人一人が どのような資質・能力を身に付けるかということが重要であることに留意する。
- また、「対話的な学び」は、学校内において他の児童生徒と活動を共にするということ だけではなく、一人でじっくりと自己の中で対話すること、先人の考えなどと文献で対

話すること、離れた場所をICT機器などでつないで対話することなどを含め、様々な対話の姿や対象が考えられる。

#### ③「深い学び」の視点

- 探究のプロセスを一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められる。実社会・実生活に即した学習課題について探究的に学ぶ中で、各教科等の特質に応じて育まれる「見方・考え方」を総合的に活用することで、個別の知識や技能は関連付けられて概念化し、能力は実際の活用場面と結び付いて汎用的になり、多様な文脈で使えるものとなることが期待できる。
- 特に、「①課題の設定」の場面で課題を自分事としてとらえること、「③整理・分析」 の場面で俯瞰して捉え内省的に考えるという「探究的な(探究の)見方・考え方」を働 かせることが重要である。

#### イ 教材や教育環境の充実

#### (教材の在り方)

○ 高等学校において、生徒が主体的に探究していく上で助けとなるような、全国共通で活用できる教材等を作成することを検討する。例えば課題の設定や、情報の整理・分析に関する思考のスキル、成果を適切にまとめて発表するための方法といったことを学べるものとすることが考えられる。その際、高等学校の総合的な学習の時間が、「当該教材を教えるもの」にならないよう留意する。

#### (必要な条件整備)

- 各学校において、全ての教職員が協力して力を発揮するため、校長のビジョンとリーダーシップのもと、各学校が育成しようとする子供の姿から必要な資質・能力を明らかにし、各教科をつないでカリキュラムデザインができるミドルリーダー的な教員が育っことが期待される。
- 総合的な学習の時間を担当する教員の資質・能力向上を図るため、国や都道府県等の レベルで各地域の取組状況等を協議できる機会を引き続き充実する。
- 「社会に開かれた教育課程」の視点から、学校と保護者とが育成したい子供たちの資質・能力について共有し、必要な協力を求めることも大事である。
- 地域との連携に当たっては、コミュニティ・スクールの枠組みの積極的な活用や、地域学校協働本部との協働を図ることが望まれる。地域の様々な課題に即した学習課題を設定するに当たり、教育委員会と首長部局との連携も強く求められる。

# 総合的な学習の時間において育成を目指す資質・能力の整理

国が定める目標及び各学校の教育目標に基づき各学校において設定

	<ul><li>○ 課題について横断的・総合的な学習 や探究的な学習を通して獲得する知識 (及び概念)</li></ul>	<ul><li>○ 探究することを通して身に付ける 課題を見いだし解決する力</li></ul>	○ 主体的に探究することの経験の蓄積を 信念や自信、自己肯定感につなげ、さら
高等学校	<ul><li>課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能</li><li>探究することの意義や価値の理解</li></ul>	・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など	信念や自信、自己育定感につなり、さらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる。  ○ 協同的(協働的)に探究することの経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。
中学校(	<ul><li>課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念)</li><li>課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能</li><li>探究的な学習のよさの理解</li></ul>	<ul><li>○ 探究的な学習を通して身に付ける 課題を見いだし解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など</li></ul>	<ul><li>主体的な探究活動の経験を自己の成長と結び付け、次の課題へ積極的に取り組もうとする態度を育てる。</li><li>協同的(協働的)な探究活動の経験を社会の形成者としての自覚へとつなげ、積極的に社会参画しようとする態度を育てる。</li></ul>
小学校(	<ul><li>課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念)</li><li>課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能</li><li>探究的な学習のよさの理解</li></ul>	<ul><li>○ 探究的な学習を通して身に付ける 課題を見いだし解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など</li></ul>	<ul><li>主体的な探究活動の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする態度を育てる。</li><li>協同的(協働的)な探究活動の経験を実社会・実生活への興味・関心へとつなげ、進んで地域の活動に参加しようとする態度を育てる。など</li></ul>

# 総合的な学習の時間における教育のイメージ

## 高等学校の総合的な学習の時間を、より探究的な時間となるよう位置づける

- ・探究する能力を育むための総仕上げとしての在り方を明確化し、名称も見直す(例えば「総合的な探究の時間」とする等)
- ・ 特定の分野を前提とせず、実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、より自分のキャリア形成の方向性を考える
- ・ 生徒が主体的に探究していくことを助ける教材等の作成も検討

【高等学校】

<u>< 探究の見方・考え方 ></u> 「各教科等における見方・考え方を総合的・統合的に活用して、広範かつ複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の複雑な文脈や自己の在り方生き方と関連付けて問い続けること」

◆学習指導要領で示す目標(イメージ)

探究の見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の<u>在り方生き方</u>を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- ○課題(学習対象)に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究の意義や価値を理解するようにする
- ○実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- ○主体的・協同的(協働的)に課題を探究し、互いのよさを生かしながら、新たな価値の創造やよりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる
- ◆各学校が設定する目標:上記を踏まえ各学校が目標を設定し、その目標を踏まえた内容を定める。 →各学校の教育目標に直接つながり、その高校のミッションを体現するものとなるようにする

【中学校】

<u>< 探究的な見方・考え方 ></u> 「各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けて問い続けること」

◆学習指導要領で示す目標 (イメージ)

探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- ○課題(学習対象)に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解するようにする
- ○実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- ○主体的・協同的(協働的)・探究的な学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を育てる
- ◆各学校が設定する目標:上記を踏まえて、各学校が目標を設定し、その目標を踏まえた内容を定める。

【小学校】

<u>< 探究的な見方・考え方 ></u> 「各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けて問い続けること」

**◆学習指導要領で示す目標**(イメージ)

探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- ○課題(学習対象)に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解するようにする
- ○実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- ○主体的・協同的(協働的)・探究的な学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を育てる
- ◆各学校が設定する目標:上記を踏まえて、各学校が目標を設定し、その目標を踏まえた内容を定める。

総合的・統合的に活用総合的な学習の時間で各教科等の見方・考え方

各 33数

科

等

科等の「深い学び」を実現なものになり、な文脈で使えるようになるなどして科等の見方・考え方が、

各確多各

教か様教

# 総合的な学習の時間の学びの過程のイメージ

# ■小学校

	課題の設定	情報の収集	整理∙分析	まとめ・表現
学習方法	■問題状況の中から課題を発見し設定する ■解決の方法や手順を考え、 見通しをもって計画を立てる	■手段を選択し、情報を収集 する ■必要な情報を収集し分析す る	■問題状況における事実や 関係を把握し理解する ■多様な情報の中にある特 徴を見付ける ■課題解決を目指して、事象 を比較したり、関連付けたりし て考える	■相手や目的、意図に応じて分かりやすくまとめ、表現する ■学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする
	○課題の解決に向けて招	R究活動に主体的に取り組も:	うとする(主体性)	
探究活動と 自分自身	○自分らしさを発揮して	探究活動に向き合い、課題態	解決に向けて取り組もうとす <sup>,</sup>	る(自己理解)
	○探究的な課題解決の経	E験を自信につなげ、次の課題	<b>堕へ進んで取り組もうとする</b>	(内面化)
	○課題の解決に向けて招	<b>緊究活動に協同的に取り組も</b>	うとする(協同性(協働性))	
探究活動と	○異なる意見や他者の考え	えを受け入れながら探究活動に「	句き合い、目標の達成に向けて国	取り組もうとする(他者理解)
他者や社会	<ul><li>○探究的な課題解決が実社 (社会参画、社会貢献)</li></ul>	会・実生活への興味・関心へとて	つながり、進んで地域の活動に参	加しようとする

知識

実社会の課題に関する事実的知識®の獲得

概念的知識※の形成

※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる

技能

課題設定のスキル

情報収集のスキル

思考のスキル

表現のスキル

(比較・分類・関連付け)

■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する ■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する 1

# ■中学校

■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する

	課題の設定	情報の収集	整理•分析	まとめ・表現
学習方法	■複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する ■仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する	■目的に応じて手段を選択し、 情報を収集する ■必要な情報を収集し、多角 的に分析する	■複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えを持つ ■視点を定めて多様な情報を分析する ■課題解決を目指して、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える	■相手や目的、意図に応じて論理的に表現する ■学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かす
	○課題に誠実に向き合い	1、課題の解決に向けて探究流	活動に主体的に取り組もうと	する(主体性)
探究活動と	○自分のよさを生かしな	いから探究活動に向き合い、資		
自分自身	<ul><li>○探究的な課題解決の経験 (内面化)</li></ul>	<b>倹を自己の成長と結び付けて考え</b>	えることができ、次の課題へ積板	<b>亟的に取り組もうとする</b>
	○互いの特徴を生かする	など、課題の解決に向けて探3	2活動に協同的に取り組もう	とする(協同性(協働性))
探究活動と 他者や社会	○異なる意見や他者の考	えを受け入れならが探究活動	動に向き合い、互いを理解し	ようとする(他者理解)
ISA VILA	<ul><li>○探究的な課題解決が社会</li><li>(社会参画、社会貢献)</li></ul>	会の形成者としての自覚へとつな	よがり、積極的に社会活動へ参 が	叩しようとする
	<b></b>	7 -tt- 1.L. L - 2-10	ing A	
知識		る事実的知識※の獲得 含的な学習の時間で扱う内容は各学校!		り知識(※)の形成 歳の具体は各学校において異なる。
技能	課題設定のスキル	情報収集のスキル	思考のスキル	表現のスキル

■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する 2

(比較・分類・関連付け・多面的)

# ■高等学校

	課題の設定	情報の収集	整理•分析	まとめ・表現
学習方法	■複雑な社会状況を踏まえて 課題を設定する ■仮説を立て、それに適合した 検証方法を明示した計画を立 案する	■目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的、実際的に分析する	■複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する ■視点を定めて多様な情報から帰納的、演えき的に考察する ■事実や事実間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える	■相手や目的、意図に応じて手際よく論理的に表現する ■学習の仕方や進め方を内省し、 現在及び将来の学習や生活に生かす
- II	○課題に真摯に向き合い、。	より適切な課題の解決に向け 	て探究活動に主体的に取り組	もうとする(主体性)
探究活動と 自分自身	○自分の特徴を生かし当事者意	識と責任感をもって探究活動に向	向き合い、計画的に着実に取り組	もうとする(自己理解)
	○探究的な課題解決の経験の蓄積		肯定へとつなげ、更に高次の課題	に取り組もうとする(内面化)
ш	○互いを認め特徴を生かし合	うなど、課題の解決に向けた	探究活動に協同的に取り組も	うとする(協同性(協働性))
探究活動と 他者や社会	○異なる意見や他者の考えを	受け入れながら探究活動に向き	合い、互いを尊重し理解しよう	とする (他者理解)
	○探究的な課題解決の経験の蓄積 い社会の実現に努めようとする	漬が、自己有用感や実社会・実生活 、(社会参画、社会貢献)	に貢献しようとする態度へとつな	がり、社会の形成者としてよりよ
知識		する事実的知識※∞の獲	学ぶことの意	識 ※ の形成 義や価値の理解
技能	課題設定のスキル	総合的な学習の時間で扱う内容は各学校 情報収集のスキル	において定めることとなっているため、気 思考のスキル (比較・分類・関連付け・多面的・構造的)	表現のスキル
■知識は、	■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する ■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する			